

第3部会【産業・環境部門】 会議概要録

【開催概要】

- 名称：平成25年度 第10回 東区自治協議会 第3部会
- 日時：平成26年2月20日（木）午前10時～11時30分
- 場所：新潟駅周辺整備事務所（プラカ2 7F）
- 出席者：早福委員、田村委員、古泉委員、西方委員、渡辺委員、音田委員、清水委員、金子委員
（事務局）地域課

【審議内容】

1 新潟駅周辺整備事業について

第3部会が、今年度重点的に取り組んでいる公共交通のなかで、新潟駅周辺整備事業の概要等を勉強するため新潟駅周辺整備事務所に伺いました。

新潟駅周辺整備事務所の職員から、鉄道の在来線を高架にする連続立体交差事業のほか、鉄道を横断して新しく整備する幹線道路整備事業や駅前広場整備事業など新潟駅周辺整備事業の計画内容、進捗状況、今後の予定などの概要について説明してもらいました。（別紙資料参照）

東区内では、今年度、JRの上沼垂信号場の線路の切り換え工事を数回行いました。

委員からは鉄道高架化の事業区間や事業費についての質問や、事業に関連して新幹線と空港の接続が必要、などの意見が出ました。

東区は区バス（河渡ルート）が新潟駅南口を起終点としており、また、新潟駅周辺整備事業の完成によって、路線バスが新潟駅の下を通過し南北でつながるようになるということから、公共交通を考える上で今後も事業の動向を注視していきたいと思います。

2 区バス社会実験事業（平成25年度自治協議会提案事業）について（別紙1）

10月から1月までの運行実績は別紙1のとおりです。1日あたりの利用者数は、平成24年度下半期と比較して約1.5倍、平成25年度上半期と比較すると、約1.4倍増えていることがわかりました。

3 次回の開催について

- 日時 平成26年3月13日（木） 午前10時～
- 会場 新潟国道事務所
- 内容 万代島ルート線の進捗状況と今後の予定

東区自治協議会提案事業 東区バス（松崎ルート）社会実験
 《平成25年10月～平成26年1月 80日間》

1 運行便数・利用者数・収支率

	運行便数 (1日あたり)	利用者数 (1日あたり)	収支率
社会実験便	5便	45人	33.1%
本運行便	6便	94人	48.4%
合計	11便	139人	41.7%

2 比較（平成24年度下半期、平成25年度上半期との比較）

1) 利用者数（1日あたり）

	利用者数	増減	増減率	比較対象
10月～1月	139人	48人増	153%	平成24年度下半期 91人
		42人増	144%	平成25年度上半期 97人

2) 収支率

	収支率	増減	増減率	比較対象
10月～1月	41.7%	-5.8%	87.8%	平成24年度下半期 47.5%
		-8.8%	82.6%	平成25年度上半期 50.5%

※社会実験便と本運行便をあわせた合計を比較する



日本海政令市
にいがた

あすの新潟市を創る。

新潟駅周辺整備事業

連続立体交差事業 / 幹線道路整備事業 / 駅前広場整備事業



新潟駅周辺整備事業とは

新潟駅周辺整備は、鉄道を挟んだ南北市街地の一体的な整備を図り、日本海拠点都市にふさわしい都市機能の強化に向けて、鉄道在来線の高架化や幹線道路、駅前広場等の都市基盤整備をはじめ、駅周辺市街地の総合的な整備を図るものです。

新潟駅周辺地区の役割と将来像

日本海側の国土軸の形成

「新潟」の拠点性の向上



北東アジア交流の陸の玄関口

新潟空港や東北の日本海沿岸地域と連携した北東アジア交流の陸の玄関口

水の都にいがたの都心軸の“要”

新潟駅を挟んだ都心軸と基幹公共交通軸の形成

人と環境に優しい都市交通体系の主要ターミナル

都市内における公共交通の結節点

新潟駅を挟んだ都心軸の形成

鉄道と基幹公共交通軸の結節点



新潟駅周辺地区の現状と課題

駅周辺地区

現状

- 南北市街地の発展に不均衡が生じています。
- シンボリックな施設がなく、陸の玄関口としての魅力に欠けています。

課題

- ▶南北市街地の一体化を図り、都市機能（商業業務・交通機能など）の強化・集積を図る必要があります。
- ▶生活道路の整備、公園・広場・居住環境を改善する必要があります。



天神尾踏切

米山踏切

現状

- 地区内の踏切で交通混雑が慢性化しています。
- 歩行者と車両が狭い踏切を通過するため、危険な状態となっています。

課題

- ▶交通混雑解消や歩行者などの安全確保のため、鉄道と道路の立体交差化の必要があります。

踏切

万代口
バスターミナル



駅前広場

現状

- 万代広場では安全性の確保、交通処理に影響が出ています。
- バスターミナルがスイッチバック方式となっています。

課題

- ▶安全で円滑な交通処理を図るとともに、高齢者や障がい者などすべての利用者にとって利便性の高い駅前広場にする必要があります。



万代広場

新潟駅

南口広場
(H21供用)

出来島上木戸線

現状

- 交通混雑が発生しています。
- 東跨線橋治道で有効な土地利用が図られていません。
- 歩道が狭く、緑が少ないため安全性・快適性が不足しています。

課題

- ▶鉄道横断部の交通混雑の緩和と鉄道を挟む南北市街地の連続性を高める道路整備の必要があります。
- ▶歩行者、自転車にとって安全で快適な交通環境に改善する必要があります。

周辺道路



出来島上木戸線



奥跨線橋

新潟駅周辺整備事業「これまでの歩み」

平成4年度 新潟県・新潟市共同調査開始

平成10年度 「新潟駅周辺整備基本構想」公表

平成10～12年度 新潟駅周辺まちづくり懇談会、説明会、シンポジウムなど実施

平成13～14年度 「新潟駅駅舎・駅前広場計画提案競技」最優秀賞決定（堀越グループ）

平成13～16年度 「新潟駅周辺整備計画案」の公表、説明会、市民ワークショップなど実施

平成17年度 「新潟駅周辺整備計画」都市計画決定

事業スタート 平成18年度 「新潟駅付近連続立体交差事業」「都市計画道路（3路線）」都市計画事業認可

平成19年度 政令市移行に伴い連続立体交差事業の事業主体が県から新潟市へ移管

平成21年度 新潟駅南口広場第一期工事完了

平成21年度 新潟駅南口第二地区再開発事業完了

平成23年度 連続立体交差事業及び関連道路事業計画の見直し※

※平成23年度、事業着手から概ね5年が経過したことから、現状や社会経済状況の変化を踏まえ、新たな整備目標を定めました。

市民ワークショップ [平成13年～21年] (駅舎・駅前広場の設計～南口広場の活用まで)



多くの市民の方からご意見をいただきながら南口広場の整備・活用について検討してきました。

ワークショップの成果の一例
[コネクターキューブ壁面の絵柄]

新潟駅南口広場整備(「弁天線」を含む) (南口広場供用/平成21年9月) (弁天線全面完成/平成24年度)



平成21年度供用の南口広場



多くの人で賑わう南口中央広場



平成24年度全面完成の弁天線

再開発事業 (新潟駅南口第二地区再開発事業/平成22年2月完成)



LEXN(レクスン)



レクスン広場のライトアップ



レクスン広場のキャンドルナイトのようす

平成24年度～

- 仮ホーム（8・9番線）の使用開始後、5・6・7番線付近で高架化に向けた工事を進めます。



高架化工事箇所 (H25.4.15撮影)



平成30年度頃～（高架暫定開業）

- 暫定開業では、高架線路2～5番線を供用し、新幹線と在来線の同一ホームが供用され、新幹線との乗り換え利便性が向上し、利用圏域が広がります。
- 越後線の高架化が終わり、2つの踏切が不要となり南北方向の移動の利便性・安全性が向上します。
- 引き続き、高架線路1番線の整備に向けて、2・3・4番線付近で工事を進めます。



高架暫定開業 イメージ図



新幹線と在来線の同一乗り換えホーム

平成33年度頃～（高架全面開業）

- 新潟駅や信越線、白新線の全ての高架化が終わり、万代広場の整備を進め、鉄道高架橋の下では、土地の有効利用や道路整備が進められます。



高架全面開業 イメージ図



高架下利用(イメージ)



在来線の高架下の一部では、広場や駐輪場などの公的施設による有効活用が可能となります。

側道 イメージ図



側道や鉄道横断道路を整備し、沿線環境影響の緩和と交通の利便性向上を図ります。

幹線道路整備事業

平成24年度～

- 新潟鳥屋野線や駅南線の工事を進め、順次部分供用を図ります。生活道路への通過交通の流入が抑制され、環境の改善が進みます。



現在のけやき通り周辺の状況



けやき通りから、生活道路へ通過交通が流入しています。

平成30年度頃～(高架暫定開業)

- 鉄道横断道路として、新潟鳥屋野線が最初に開通します。古町地区と駅南地区を結ぶ幹線道路となります。



新潟鳥屋野線 完成イメージ図



歩行者・自転車分離のイメージ



平成33年度頃～(高架全面開業)

- 高架完成後、東跨線橋の撤去工事が始まります。



現在の明石紫竹山線の混雑状況



明石紫竹山線 完成イメージ図



東跨線橋が撤去され、道路が平面化されることにより、交通の流れが円滑になります。また、冬期間の安全性が向上します。

駅前広場整備事業

平成24年度～

新潟駅万代広場部分整備

- BRT第1期導入に合わせた万代広場の部分整備を進めます。
- その後も、完成まで万代広場の変わりゆく姿を実感できるような段階的な整備に取り組みます。
- 万代広場部分整備イメージ



平成33年度頃～(高架全面開業)

新潟駅高架下交通広場供用(H34年度)

- 高架下交通広場の供用により、路線バス及び新たな交通システムの南北一体化が可能になります。

高架下交通広場 完成イメージ図



平成35年度頃

新潟駅万代広場整備

- 駅改札から広場まではデッキ(上空通路)などで繋がることで、安全に街までの移動が可能になります。



コンセプト

「人、交通、自然が気持ちよく循環する都市の庭」



新潟駅万代広場 完成イメージ図



整備方針・目的と事業計画概要

連続立体交差事業 (在来線の高架化)

- 踏切の除却による安全性・利便性の確保
- 南北市街地の一体化
(高架下空間の有効利用、区画道路の整備など)
- 新幹線・在来線同一ホームによる乗り換えの利便性向上による国土軸の形成(新幹線・在来線同一ホーム事業)

事業計画概要

- JR信越本線等連続立体交差事業
高架区間 L=約2.5 km
(撤去踏切：米山踏切、天神尾踏切)

幹線道路整備事業

(新潟鳥屋野線・出来島上木戸線等の整備)

- 自動車の安全かつ円滑な交通の確保
- 歩行者、自転車の安全性・利便性の確保
- 電線類地中化による都市景観や都市防災の向上など

事業計画概要

■新潟鳥屋野線	L=819m	W=30m
■新潟駅西線	L=831m	W=22m
■井天線	L=330m	W=60m
■新潟駅東線	L=750m	W=22m
■明石紫竹山線	L=766m	W=18~22m
■出来島上木戸線	L=1,855m	W=22m
■駅南線	L=144m	W=16m

駅前広場整備事業 (万代広場、高架下交通広場の整備)

- 基幹公共交通軸の形成
- 広場内へのバス・タクシー・一般車の混入解消
- 人を癒し、にぎわいの絶えない空間の創出

事業計画概要

- 万代広場 A=約18,500㎡
- 南口広場 A=約14,000㎡
- 高架下交通広場 A=約4,000㎡

その他の関連事業

- 駅周辺市街地の整備
(駅周辺の土地の有効利用や高度利用の促進)
- 白山駅周辺整備事業



新潟駅付近連続立体交差事業の工事状況 Ver. 4

(平成25年12月現在)

【関連事業】白山駅周辺整備事業

連続立体交差事業による新潟駅のスリム化(ホーム4面・路線7線→ホーム3面・線路5線)に伴い、白山駅のホームと線路を1面2線から2面3線に改造しています。平成25年9月1日より地下自由通路の供用を開始し、駅を利用されない方も迂回することなく南北の行き来ができるようになります。今後は自由通路北口のエレベーターや広場整備を行い、バリアフリー化を進め更なる利便性の向上を図ります。エレベーターは平成25年度中の供用開始を、広場整備は平成26年度末の完成を予定しています。

お問い合わせ

新潟市都市政策部 新潟駅周辺整備事務所

〒950-0911 新潟市中央区笹口1-2-2 ブラーカ2・7階
TEL025-245-1260(代) FAX025-245-1259 E-mail : ekishu@city.niigata.lg.jp

詳しくはホームページで

新潟駅周辺整備

検索

<http://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/doro/ekisyu/index.html>

平成25年12月 Ver. 4